

令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立新北島中学校

令和8年4月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校は、「命と人権を大切にし、確かな学力を基盤とした生きる力を身につけた生徒を育成するとともに、生徒の自尊感情の向上に向けた取組を充実させる。」ことを教育目標とし、生徒主体の学校運営の推進に取り組んでいる。

- ①学校行事や学年行事においては、生徒が企画・運営の段階から主体的に参画する取組を進めており、多くの生徒が達成感や成就感を味わうことができた。今後も取組内容の質的向上を図り、より高い目標に挑戦できる行事づくりを進めるとともに、これらの経験を通して生徒の自己肯定感の一層の向上につなげていく必要がある。
- ②教育相談体制については、教育相談の実施や連絡ノートを活用により、生徒が安心して教員に相談できる環境づくりを進めてきた。その結果、生徒からの相談件数は増加傾向にある。今後は、定期的なアンケートや学級活動等を通して生徒の声を把握する機会を意図的に設定するとともに、スクールカウンセラーとの連携を一層強化し、多様なニーズに応じた支援体制の充実を図る。
- ③学校生活アンケートにおける「自分にはよいところがあると思うか」の項目については、肯定的に回答した生徒の割合が83.4%（前年度79.5%）となり、目標値である80%を上回った。命の大切さや他者との協働、仲間を思いやる心を育む取組が成果として表れていると考えられる。今後も自尊感情の向上を学校教育の基盤として位置づけ、継続的な取組を推進していく。
- ④進路指導・キャリア教育については、生徒が自らの将来を主体的に選択できる力の育成をめざし、職場体験や職業講話、進路学習、進路講話等を計画的に実施している。今後も発達段階に応じた系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。
- ⑤不登校生徒への支援については、全体としては横ばいの状況であるが、アシストルームの設置以降、利用生徒の増加や学校との関わりの維持など、一定の改善傾向が見られる。今年度も専任教職員を配置し、全稼業時間での運用を継続するとともに、個々の状況に応じた段階的な支援を充実させていくことが求められる。
- ⑥学力面においては、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果、対府平均正答率は国語92%、数学85%と、いずれも前年度より向上した。一方で、問題に粘り強く取り組む態度や、自分の考えを自分の言葉で表現する力、資料や文章を的確に読み取る力、論理的に考えを構成する力に課題が見られる。今後は、ICT機器を効果的に活用しつつ、「学習者用端末」を用いた日常的な振り返り活動や、思考・判断・表現を重視した授業改善を推進し、読解力を含めた総合的な学力の向上を図る。
- ⑦英語教育においては、3年生および1・2年生の希望者を対象に英語検定を実施した。目標値である合格率40%には届かなかったものの、2級や準2級といった上位級に挑戦する生徒が増加し、合格者も出ている。今後は、基礎学力の定着を図るとともに、段階的な指導や受検対策の充実により、全体の合格率向上をめざす。

- ⑧体育的活動においては、各学年で既存の競技に加え、運動やスポーツに親しむ新たな取組を実施している。これらも企画段階から生徒が主体的に関わり、運営まで担っている点に特色がある。今後も本取組を継続するとともに、多様な運動機会の創出を通して、生涯にわたって運動に親しむ態度の育成を図る。
- ⑨学校生活アンケートの「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」という項目については、肯定的回答の割合が年々増加している。今後は、話し合い活動のねらいや方法を明確にし、評価を工夫しながら、その質の向上を図る必要がある。

以上の成果と課題を踏まえ、今後は「読解力・表現力の向上」「不登校支援の充実」「自尊感情のさらなる向上」を重点課題として位置づけ、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を、全教職員が一体となって推進していく。

#### **中期目標**（令和11年度まで）

##### **【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】**

- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

##### **【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を62%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を84%以上にする。

##### **【最重要目標 3 学びを支える教育環境の実現】**

- ・年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月33時間以下とする。
- ・年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を55%以下にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### **年度目標**（【**最重要目標 1 安全・安心な教育の推進**】）

- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R7-1%)
- ・年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 84%以上にする。(R7-83%)

### **【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を60%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。

### **【最重要目標 3 学びを支える教育環境の実現】**

- ・年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 36 時間以下とする。(R7-累計 36 時間 29 分)
- ・年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を 58%以下にする。(R7-59.6%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	達成 状況
<p><b>年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R7-11%)</li> <li>・年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を84%以上にする。(R7-83%)</li> </ul>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗 状況</p>
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>生徒主体で企画・運営する体育大会や文化発表会などの学校行事を設定し、生徒が「楽しい」と感じられる機会を設ける。</p> <hr/> <p>指標：年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。(R7-84%)</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>生徒が教員に安心して相談できるよう、生徒・教員間で教育相談や連絡ノート等を活用し、生徒の声を拾う機会を作るとともに、生徒理解を進める。</p> <hr/> <p>指標：学校生活アンケートにおいて「悩みや心配事を相談できる先生がいますか」の項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を84%以上にする。(R7-82%)</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <p>生徒に将来について考える機会を持たせるため、キャリア教育を実施する</p> <hr/> <p>指標：年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7-調査なし)</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>不登校生徒の居場所づくり、登校経験を増やすため、アシストルームを開設する。</p> <hr/> <p>指標：教員だけでなく、学びサポーター等の人員を配置し、全授業時間に開設する。(R7-全稼業時間開設達成)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>	達成 状況
<p><b>年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を60%以上にする。</li> <li>・年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。</li> <li>・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>習熟度別分割授業やチームティーチングを実施することで、学習内容の理解が進むようにする。また、学びサポーターや元気アップコーディネーターと連携して放課後学習にも取り組む。</p> <hr/> <p>指標：前期・後期で実施する校内授業アンケートで、「（教科）の授業はわかる」の項目の数値を前期より後期が上回るようにする。</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>授業や定期テスト前の学習会、学年行事の取組を行う際に「グループワーク」形式で教え合い、意見交換を中心とした協働学習を行う。</p> <hr/> <p>指標：学校評価アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を55%以上にする。（R7-54%）</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>校長経営戦略支援予算と区役所予算を活用して、3年生を対象に英語検定（希望する級）を実施する。</p> <hr/> <p>指標：3年生に全員で受検させ、合格した生徒の割合を40%以上にする。（R7-38%）</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>既存の競技だけでなく、学年単位で運動やスポーツに親しむための取組を実施する。</p> <hr/> <p>指標：各学年とも年間で1回以上、学年単位でスポーツに関する取組を実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【最重要目標3 学びを支える教育環境の実現】	達成 状況
<p><b>年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度目標アンケートにおける「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を75%以上にする。</li> <li>・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月36時間以下とする。(R7-累計36時間29分)</li> <li>・年度目標アンケートにおける「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を58%以下にする。(R7-59.6%)</li> </ul>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗 状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</b> 各教科の授業や道徳の授業で週3回以上、ICT機器を使用する。</p> <p>指標：教員アンケートにおいて「週にどの程度ICT機器を使用した授業を行うことができましたか」の項目において、3回以上と回答する教職員の割合を80%以上にする。(R7-76%)</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> 教員の働き方改革を推進するため、学校閉庁日の拡大や「ゆとりの日」の充実をはかる。</p> <p>指標：「ゆとりの日」を月1回設定し、その日の定時退勤者（午後5時30分をめど）を全教職員の78%とする。(突発的な対応は除く)(R7-76%)</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館司書と連携しながら図書館の開館頻度と時間を増やし、図書館で読書をする生徒の増加を図る。また学校生活に関連した図書や、読みやすい本の購入。</li> <li>・各教科の授業での図書館利用を勧奨する。</li> <li>・図書委員会と連携し、本の紹介などを行い生徒に興味関心を持たせる。</li> </ul> <p>指標：学校生活アンケートで、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を58%以下にする。(R7-59.6%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

令和8年度 学校関係者評価報告書

大阪市立新北島中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：
年度目標：

3 今後の学校園の運営についての意見

--